Awards Manual

Published by JCI (Junior Chamber International)
15645 Olive Boulevard, Chesterfield, MO 63017, USA
Tel. +1 636-449-3100 • Fax +1 636-449-3107
www.jci.cc

2011年度改訂版

Awards Manual

アワードマニュアル

目次

ＪＣＩアワードの歴史

セクション１： ルール

セクション２：各アワードの評価基準

グループＡ：ＮＯＭ褒賞
グループＢ：ＬＯＭ褒賞
グループＣ：個人褒賞
グループＤ：特別賞および地域褒賞

ＪＣＩアワードの歴史

ＪＣＩアワードの歴史は、当団体設立当初までさかのぼり、従って、このプログラムの発展は、同時に当団体の発展そのものです。

国際評議員会（現在の総会）で、どの位の数のアワードが次回の会議にて提案されるべきか、そして、アワードがどのような活動のために適用されるべきかが決定されました。そして、　ＪＣＩは二つのアワードを提案しました。ひとつは、ニュージーランドＪＣスポンサーのアワードで、優秀なNOMのネットワークに対して出すもの、そして、もうひとつは、ユニット{Local　Organi ｚation（地域青年会議所：LOM）}会員拡大アワードで、カナダＪＣが提案したものでした。

第６回ＪＣＩ世界会議は、１９５１年にカナダのモントリオールで開催されました。アワード委員会は、申請するアワード内容に対して、より厳密な規定と資格を設けました。また、アワードジャッジ委員会が、初めて設立されました。

１９５４年には、大きな変化と新しいアイデアがもたらされました。そのころより、アワードプログラムは現在とほぼ同様に構成されたものとなりました。ＪＣＩは、アワード基準、及び各部門別、カテゴリー別に各賞をそれぞれ個人、ＬＯＭ、ＮＯＭ対象に分類しました。その年に、初めて賞の認定書が授与されることになり、しばしばひとつ以上のエントリー受け付けられるようになりました。

世界会議でのアワードのプレゼンテーションは、いつも会議のハイライトであり、式典そのものに多少の変化はあっても、それはかわることはありません。１９６１から１９７４年に、PepsiCo Internationalは、アワードバンケット及び式典のスポンサーを務めました。　１９７５年より、それは、世界会議実行委員会の責任となりました。

１９４７年には、二つのアワードのみが受賞しましたが、１９９１年までに、アワードの数は、個人、ＬＯＭ及びNational　Organi ｚation（国家青年会議所：ＮＯＭ）部門において、合計４０増に達しました。この数は、１００もの国家青年会議所を有し、５０００ものＬＯＭがあり、２０万以上の個人会員がいることを考慮すると、驚くべき数ではありません。

電子データによるエントリー

２００３年、ラスベガス世界会議総会にて決議されたように、ＪＣＩはウェブサイトからの、電子媒体によるアワードエントリーを開発しました。３つのアワードが選ばれ、試験的に各エリア会議で実行されました。

２００４年以降は、全エリア会議及び世界会議でのアワードは、電子媒体によるエントリーで受領されることになります。

セクション1

ルール

ＪＣＩアワードの規定

細則　１８－４　褒賞

第１項　機能　：

ＮＯＭ、ＬＯＭ又は個人会員が青年会議所の目的の完遂のために果たした顕著な功績を認めて表彰すること。

第２項　開発　：

事務総長は、国際的な褒賞の開発を先導するものとし、また国際的褒賞が機会の領域、並びにＮＯＭ及びＬＯＭの会員開発のために必ず適切であるようにしなければならない。

第３項　褒賞の新設及び変更　：

新規の褒賞の採択、代わりの褒賞の採択、又は褒賞内容の変更の採択のためには、総会の三分の二の得票を要するものとする。

第４項　世界会議における褒賞の審査　：

ａ．各ＮＯＭは、世界会議における褒賞の審査の会議にその所属会員３名以下を指定して参加させる権利を有するものとする。常任理事会は、所属するＮＯＭからこのように指定された者の氏名の中から褒賞審査委員会を任命するものとし、同委員会の各構成員は各１票の投票権を有するものとする。

ｂ．届け出られた氏名の数が審査委員会を構成するためには不足であると常任理事会が判断したときは、常任理事会は構成員を追加することができる。然し、同一のＮＯＭからの委員会構成員は３名を超えてはならない。

ｃ．審査を完了したとき、褒賞審査委員は応募規定及び関連事項を再検討するものとし、また世界会議終了後の理事会の会議に望ましい変更を提案するものとする。理事会は、これらの提案を単純多数決によって採択することができる。

第５項　受賞資格　：

会員適格性を有するＮＯＭ及びかかるＮＯＭの会員のみが褒賞の応募書類を提出する資格を有するものとする。

1 賞の種類

JCI褒賞には下記の４種類がある。
グループA：NOM褒賞
グループB：LOM褒賞
グループC：個人褒賞
グループD：特別賞および地域褒賞

2 応募資格

すべてのJCI加盟NOMおよびLOMは、JCI褒賞に応募することができる。ただし、

a. 応募するNOMは、財務的責務を果たしており、応募するエリア会議および世界会議に投票権を有していなければならない。

b. 応募しているNOMのうち、応募しているエリア会議または世界会議に10名を超える会員が出席するNOMは、審査委員を最低1名、出さなければならない。さらに、賞への応募を20件以上行っているNOMは、最低2名の審査委員を出さなければならない。40件以上の応募をしているNOMは、3名の審査委員を出さなければならない。審査委員の指名はすべて、エリア会議または世界会議開催前に行わなければならない。世界会議開催前に1名の審査委員の任命もできなかったNOMについては、原則として、当該NOMが応募しているすべての賞に対して自動的に罰点を課す。ただしJCI会頭あるいは褒賞プログラム委員長は、特別免除を与えることができる。

c. LOMが提出するすべての応募書類には、当該LOMが応募資格を満たしており、かつ、NOMが最も新しくJCIに提出した加盟宣言（declaration of membership）に記載があるメンバーであることを証するNOM会頭の証明書を添付しなければならない。

3 応募者

応募は、下記の要領で行うこと。

a. グループA：NOMのみが行う。ただし、

i. 各NOMは、グループAの各賞に対して1件の応募をすることができる。

ii. 各NOMは、同一プロジェクトで2つ以上の賞に応募することはできない。

b. グループＢ：LOM（所属NOMの証明を要する）が行う。ただし、

i. 各LOMは、各賞につき1件の応募をすることができる。

ii. 各LOMは、同一プロジェクトで2つ以上の賞に応募することはできない。

iii. グループＢの同じ賞に、1つのNOMからいくつのLOMが応募してもかまわない。

iv. 所属するLOMが1つしかないNOMも、グループＢの賞への応募資格を有する。
しかし各LOMは、同一プロジェクトでグループＢとグループAの賞の両方に応募することはできない。

c. グループC: LOM（所属NOMの証明を要する）またはNOMが直接、応募する。

d. グループD: LOM（所属NOMの証明を要する）または（賞がNOM記載の書類を要件にしている場合は）NOMが直接、応募する。

4 応募書類提出時期

JCIに加盟するすべてのNOMおよびLOMは、ぞれぞれのエリア会議褒賞プログラムのJCI褒賞のみに応募することができる。
世界会議褒賞プログラムへの応募は受け付けない。エリア会議での受賞者のみ、世界会議褒賞プログラムの選考対象となる。

Note: A project that won a JCI Award at the JCI World Congress may not be entered into any JCI Conference Award program the following year or any year thereafter.

注意: 世界議会で受賞した事業は、その後数年間、どんなカテゴリーにも登録できないかもしれません。

5 プロジェクトあるいは活動の授賞対象期間

下記のとおりとする。

a. The Conference Awards period extends from January 1 of the previous year to one month before the Opening Ceremony of the respective Conference.

a. ASPAC申請の活動対象期間は、前年の1月1日から各エリア会議開会式の1カ月前までとする。

b. The Congress Awards period extends from January 1 of the previous year to October 31 in the year of the current World Congress.

b. 世界会議申請の対象期間は、前年の1月1日から今年の10月31日までとする。

c. NOMおよびLOMは、賞に応募したプログラムあるいはプロジェクトをいずれも、今授賞対象期間中に完了しなければならない。

d. 継続するプログラムやプロジェクトについては、その活動の大部分が、当期間中に行われなければならない。

e. 最優秀LOM理事長に関しては、その任期が授賞対象期間中に満了とならなければならない。

6 応募書類の提出

・ 応募書類は、JCIが提供するツール（JCIウェブサイトから入手可能）を用いて作成・編集しなければならない。

・ 応募書類は、完成後、NOM現会頭の承認を得なければならない。
NOM会頭はこの承認を、JCIが提供するツール（JCIウェブサイトから入手可能）を用いて行わなければならない。

・ 応募書類の作成、編集、NOM会頭による承認は、JCI褒賞プログラム委員長が指定した期間中、行うことができる。

・ JCI褒賞プログラム・ソフトの使い方については、本マニュアル巻末の資料を参照のこと。下記の作業のための指針を得ることができる。

o応募書類の作成・編集
o応募書類の削除
o応募書類の点検
o応募書類の承認（NOM会頭用）

7 審査

a. 審査委員団の構成

i. 総会第１セッション開始時点で応募資格を満たしているNOMは、それぞれ3名以内の審査委員候補を指名することができる。

審査委員候補は、以前に「スクラップブック」（エントリーフォームに添付するサポート資料）を準備した経験がある者とし、NOMレベルで以前に審査をした経験があれば、なおよい。

ii. 常任理事会は、現JCI理事の中から審査委員長を1名任命する。

iii. 各NOMは、NOM指名の審査委員の登録を、JCI褒賞プログラム委員長が定めた期間中にJCIウェブサイトからオンラインで行わなければならない。

iv. JCI褒賞プログラム委員長は、応募書類を審査委員に分配して審査を行うことができる。

b. 応募書類

i. 審査委員は、自分が所属するNOMまたはLOMが応募している賞の審査に参加することはできない。

ii. 各審査委員は、JCIウェブサイト上でJCIが提供するツールを使って、割り当てられた応募の評定を行う。すべての応募の評定を完了した後、審査委員団はエリア会議または世界会議の際に審査委員長と共に集合し、最終決定を行う。

iii. 各審査委員は、各賞の選考基準に従って採点をする。

iv. 審査委員団は、褒賞プログラム委員長と協議の後、賞に値する応募がなかったと判断した場合は、その賞を与えなくてもよい。

v. 受賞者以外に特別に顕彰すべき応募がある場合には、その応募に賞状を授与することができるが、それは、そのカテゴリーの受賞者の表彰後とする。

vi. 審査委員は審査結果を、正式な表彰式で発表されるまで公にしないこと。驚きの要素は必須である。

vii. 審査委員は審査結果を、正式な表彰式で発表されるまで公にしないこと。驚きの要素は必須である。

viii. 当該エリア会議または世界会議の総会第１セッション開始日時点で応募資格を満たしていないNOMの応募は、無効とする。

c. スクラップブック

JCI褒賞プログラム・ソフトの使い方については、本マニュアル巻末資料を参照のこと。下記の作業のための指針を得ることができる。

o 審査委員の各褒賞プログラムへの割当
o 応募書類の評定

d. 審査結果報告

褒賞プログラム委員長は下記の２つの報告書をJCIに提出する。

i. 審査終了後、褒賞プログラム委員長は、下記について記した手書きの短い報告書を事務総長に提出する。

(a)全審査委員の氏名と所属するNOM

(b)本マニュアルの賞の構成と順序に従って記載した審査結果。明確な褒賞一覧を作ることは重要である。

ii. 本マニュアルの賞の構成と順序に従って記載した審査結果。明確な褒賞一覧を作ることは重要である。

(a)応募書類、審査手順、スクラップブック、ロジスティクスなどに関する、審査委員団の勧告

(b)受賞者リスト

(c)将来の参考にすべき、審査に関るその他の統計資料

(d)審査および表彰式についての勧告および意見

審査に用いられる用語の説明：

- **全体的な計画、実施、財務**

  プロジェクトの概要および全体的な計画、目的、委員会の設置過程、完了までの手順、ならびに財務情報。

- **参加率**

  当該会議所会員総数に対する、プロジェクト参加会員数の割合、ならびに外部からの参加の度合い。

- **地域社会への貢献度**

  プロジェクトが地域社会にどのくらい役立ったかを、審査委員が判断する。

- **組織への貢献度**

  プロジェクトが、国際的あるいは国家・地域レベルでJCIにどのくらい役立ったかを、審査委員が判断する。

  応募者は、プロジェクトで指導者訓練がどのように行われ、会員の自己開発の機会がどのように提供されたかを示さなければならない。

- **継続性**

  プロジェクトの継続期間や頻度を審査委員が調査して評価する。

セクション2
評価基準

セクション 2

評 価 基 準

グループ A:NOM褒賞

計9部門

A1 最優秀地域開発プログラム

審査基準	ポイント
コンセプトおよび計画	25
LOMの参加度	25
LOMへの宣伝と支援	25
地域社会への貢献度	25

A2 最優秀ビジネス開発プログラム

ICCメダル　パリにある国際商工会議所(ICC)より授与される。ICCの主要目標の1つに、開かれた世界経済を推進し、経済成長、職業創出、繁栄を達成することがある。ICCの活動は、仲裁や紛争の解決から、開放貿易や市場経済システムの擁護、ビジネスの自己規制、汚職との闘い、商業犯罪との闘いと多岐にわたる。

ICCビジネス賞は、自由企業の原則を最も推進したプロジェクトまたはプログラムに授与される。対象になるプロジェクトは、国際的事業協力および投資、ビジネスおよび貿易の振興、パートナーシップ(事業団体と会議所など、公共セクターと民間セクターのパートナーシップ)、経営者教育、開発など。

審査基準	ポイント
自由企業の普及促進	25
プロジェクトの成果／影響	25
地域社会／参加者への貢献度	20
全体的な計画および実施	15
組織のイメージ／プロフィールへの貢献度	15

注:ICCビジネス賞への応募は、ICCが評価する。

A3 最優秀会員資質開発プログラム

審査基準	ポイント
全体的な計画および実施	20
LOMの参加度	20
個人会員の参加率	20
プログラムの範囲および関連性	20
LOMへの貢献度	10
個人会員への貢献度	10

A4　最優秀国際協力プログラム

審査基準	ポイント
全体的な計画、実施	20
会員の参加率	20
国際的理解と文化交流の促進	40
目的の達成度、具現化	10
組織への貢献度	10

A5　最優秀出版物

審査基準	ポイント
全体的な計画および実施	15
財務	10
内容の質	15
外観およびレイアウト	15
発行部数（定期性、頻度、部数）	10
主な流通範囲（ローカル、全国、JCI）	15
昨年からの改善度	10
JCIにとっての価値	10

A6　最優秀広報プログラム

審査基準	ポイント
プログラムの独創性（オリジナリティ）	30
計画および実施	25
国内におけるNOMへの貢献度	15
国外におけるNOMへの貢献度	15
LOMの参加度	15

A7　最優秀CSR（Corporate Social Responsibility）賞

審査基準	ポイント
プログラムへの次に述べる人々の積極的な参加。 ボードメンバー、プログラムスタッフ、 地域住民、LOMメンバー、 政府と国連Global Compact Local Network （国で存在するならば）。	20
プログラムの具体的な運動を通して Ten Principlesの一つ以上の実現。	20
改善の評価	20
改善（進歩に関するコミュニケーション） に関する投資家(先に述べた人）への コミュニケーション	20
地域社会への貢献度	10
組織への貢献度	10

グローバル・コンパクト(GC参照
http://www.ungcjn.org/aboutgc/glo_01.html)は、

各企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、
社会の良き一員として行動し、
持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに
参加する自発的な取り組みです。

グローバル・コンパクト(GC)署名企業は、
人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、
そして腐敗の防止に関わるCSRの基本原則10項目に
賛同する企業トップ自らのコミットメントのもとに、
その実現に向けて努力を継続しています。

10原則 （TEN principal）
人権
原則1： 人権擁護の支持と尊重
原則2： 人権侵害への非加担

労働基準
原則3： 組合結成と団体交渉権の実効化
原則4： 強制労働の排除
原則5： 児童労働の実効的な排除
原則6： 雇用と職業の差別撤廃
環境
原則7： 環境問題の予防的アプローチ
原則8： 環境に対する責任のイニシアティブ
原則9： 環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止
原則10： 強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

A8 最優秀UN・MDG プロジェクト

I <u>背景</u>
2000年9月、国連ミレニアム・サミットにおいて世界の指導者たちは、貧困、飢餓、疾病、非識字、環境破壊、ならびに女性差別と闘うために、期限付きで測定可能な一連の目標と目標値に合意した。

「ミレニアム開発目標（MDG）」と呼ばれるこれらの目標は、下記のとおりである。
1. 極度の貧困と飢餓の撲滅
2. 初等教育完全普及の達成
3. 男女平等の推進と女性の地位向上
4. 幼児死亡率の低下
5. 妊産婦の健康増進
6. HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延・発生阻止
7. 環境の持続可能性の確保
8. 開発のためのグローバル・パートナーシップの構築

MDGは、国連システム全体が、共通の目標に向かって一致団結して取り組むための枠組みを提供するものである。
この枠組みの中で、世界はMDGに向かって前進しているが、その足取りは一様でなく、あまりにも遅い。
大多数の国は、JCIなどのNGOをはじめとする外部団体からかなりの支援（唱道、専門知識、資源）を受けなければ、MDGを達成できないだろう。
ニューヨークの国連本部で行われた2003JCI・UN指導者サミットの結果、JCIは国連の努力に貢献する責任を担うこととし、コフィー・アナン事務総長室が実施する中心プログラムであるUN・MDGを支援する決意を伝えた。

II <u>8つのカテゴリー</u>

極度の貧困と飢餓の撲滅
・1日1ドル未満で生活する人々の割合を半減させる
・飢餓に苦しむ人々の割合を半減させる

初等教育完全普及の達成
・すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする

男女平等の推進と女性の地位向上
・できたら2005年までに初等中等教育における男女不平等をなくし、2015年までには全レベルでなくす

幼児死亡率の低下
・5歳未満児の死亡率を3分の2低下させる

妊産婦の健康増進
・妊産婦の死亡率を4分の3低下させる

HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延・発生阻止
・HIV／エイズの蔓延を阻止し、減少に向かわせる
・マラリア、その他の主要な疾病の発生を阻止し、減少に向かわせる

環境の持続可能性の確保
・持続可能な開発の原則を各国の政策やプログラムに反映させ、環境資源の喪失を阻止し、回復を図る
・安全な飲料水を継続的に利用できない人の割合を半減させる
・2020年までに最低1億人のスラム居住者の生活を大幅に改善する

開発のためのグローバル・パートナーシップの構築
・開放的で、ルールに基づいた、予測可能で差別のない貿易および金融システムをさらに発展させる（国内的、国際的に、グッド・ガバナンス=よい統治、開発、貧困の減少と取り組む決意など）
・最貧国の特殊なニーズに取り組む（最貧国からの輸入品に対する無関税・無枠措置、重債務貧困諸国に対する債務救済の拡大、二国間債務の帳消し、貧困削減に取り組む諸国に対するより寛大なODAの提供）
・内陸国および小島嶼開発途上国の特別なニーズに取り組む
・国内および国際的措置を通じて、開発途上国の債務問題に包括的に取り組み、債務を長期的に持続可能なものとする
・開発途上国と協力し、若者のために、適切で生産性のある仕事を開発する
・製薬会社と協力し、開発途上国の人々が必須医薬品を安価に入手できるようにする
・民間セクターと協力し、新技術（特に情報・通信分野）による恩恵を享受できるようにする

III 審査

審査基準	ポイント
全体的な計画、実施、評価	10
会員の参加率	10
広報	20
地域社会への貢献度	20
組織への貢献度	20
プロジェクトへの国連機関の参加度	20

注：UN・MDG賞に応募したプロジェクトは、他の賞にも応募することができる。

A9　青少年活動賞

審査基準	ポイント
全体的な計画および実施	20
参加率	20
国内での貢献度	20
プログラムの効果	20
他のNOMに対する推薦度	20

各エリア優秀NOM賞／世界優秀NOM賞

世界で最も優秀なNOMを称えて、トロフィーが授与される。受賞者はJCI会頭が決定するので、他の賞と同じようには審査されない。この賞について、応募は不要。

審査

審査は、世界会議およびエリア会議に向けて、JCI会頭が随意に行う。

グループ B: LOM褒賞

計13部門

B1 最優秀地域開発プログラム

審査基準	ポイント
調査	10
分析	10
計画	10
実施	10
評価	10
会員参加率	15
地域社会への貢献度	25
組織への貢献度	10

B2 最優秀ビジネス開発プログラム

ICCメダル　パリにある国際商工会議所(ICC)より授与される。ICCの主要目標の1つに、開かれた世界経済を推進し、経済成長、職業創出、繁栄を達成することがある。ICCの活動は、仲裁や紛争の解決から、開放貿易や市場経済システムの擁護、ビジネスの自己規制、汚職との闘い、商業犯罪との闘いと多岐にわたる。

ICCビジネス賞は、自由企業の原則を最も推進したプロジェクトまたはプログラムに贈呈される。対象になるプロジェクトは、国際的事業協力および投資、ビジネスおよび貿易の振興、パートナーシップ(事業団体と会議所など、公共セクターと民間セクターのパートナーシップ)、経営者教育、開発など。

審査基準	ポイント
自由企業の普及促進	25
プロジェクトの成果／影響	25
地域社会／参加者への貢献度	20
全体的な計画および実施	15
組織のイメージ／プロフィールへの貢献度	15

注:ICCビジネス賞への応募は、JCI審査委員ではなく、ICCが評価する。

B3 最優秀会員資質開発プログラム

審査基準	ポイント
全体的な計画、実施、財務	25
参加率	15
組織への貢献度	25
参加会員への貢献度	25
補助資料	10

B4 最優秀国際協力プログラム

審査基準	ポイント
全体的な計画、実施、財務	20
会員の参加率	20
国際的理解の促進	40
地域社会への貢献度	10
組織への貢献度	10

B5 最優秀環境開発プログラム

審査基準	ポイント
全体的な計画、実施、財務	25
参加率	15
組織への貢献度	25
参加会員への貢献度	25
補助資料	10

B6 最優秀広報プログラム

審査基準	ポイント
大衆に対する好ましい全体的影響	40
会員の参加率	10
地域社会への貢献度	15
計画、実施、財務	25
組織への貢献度	10

B7 最優秀CSR(Corporate Social Responsibility)賞

審査基準	ポイント
プログラムへの次に述べる人々の積極的な参加。 ボードメンバー、プログラムスタッフ、 地域住民、LOMメンバー、 政府と国連Global Compact Local Network (国で存在するならば)。	20
プログラムの具体的な運動を通して Ten Principlesの一つ以上の実現。	20
改善の評価	20
改善(進歩に関するコミュニケーション) に関する投資家(先に述べた人)への コミュニケーション	20
地域社会への貢献度	10
組織への貢献度	10

グローバル・コンパクト(GC参照
http://www.ungcjn.org/aboutgc/glo_01.html)は、
各企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、

社会の良き一員として行動し、
持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに
参加する自発的な取り組みです。

グローバル・コンパクト(GC)署名企業は、
人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、
そして腐敗の防止に関わるCSRの基本原則10項目に
賛同する企業トップ自らのコミットメントのもとに、
その実現に向けて努力を継続しています。

10原則 （TEN principal）
人権
原則1： 人権擁護の支持と尊重
原則2： 人権侵害への非加担

労働基準
原則3： 組合結成と団体交渉権の実効化
原則4： 強制労働の排除
原則5： 児童労働の実効的な排除
原則6： 雇用と職業の差別撤廃
環境
原則7： 環境問題の予防的アプローチ
原則8： 環境に対する責任のイニシアティブ
原則9： 環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止
原則10： 強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

B8 最優秀会員拡大プログラム

審査基準	ポイント
全体的な計画および実施	20
会員の参加率	15
地域社会への貢献度	15
組織への貢献度	30
プログラムの継続性	20

B9 最優秀基金増進プログラム

審査基準	ポイント
全体的な計画および実施	20
スポンサーおよび(または)会員の参加率	20
組織への貢献度	40
財務	10
補助資料	10

B10 各エリア優秀LOM賞／世界優秀LOM賞

審査基準	ポイント
LOMの運営(会員、財務、広報、計画など)	20
個人会員開発プログラム(トレーニング、コンクールなど)	20
地域開発プログラム	20
国際プログラム	20
ビジネス・プログラム	20

B11　各エリア優秀新設LOM賞／世界優秀新設LOM賞

（NOMおよびJCIに加盟して3年以内のLOMで、JCの目標および目的遂行に最も優れた、貢献度の高い成果をあげた会議所に授与する）

審査基準	ポイント
LOMの運営（会員、財務、広報、計画など）	20
個人会員開発プログラム（トレーニング、コンクールなど）	20
地域開発プログラム	20
国際プログラム	20
ビジネス・プログラム	20

B12　最優秀UN・MDG賞

I　背景

2000年9月、国連ミレニアム・サミットにおいて世界の指導者たちは、貧困、飢餓、疾病、非識字、環境破壊、ならびに女性差別と闘うために、期限付きで測定可能な一連の目標と目標値に合意した。

世界のアジェンダの中心に置かれたこれらの目標は、「ミレニアム開発目標（MDG）」と呼ばれ、下記の8項目から成る。

1. 極度の貧困と飢餓の撲滅
2. 初等教育完全普及の達成
3. 男女平等の推進と女性の地位向上
4. 幼児死亡率の低下
5. 妊産婦の健康増進
6. HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延・発生阻止
7. 環境の持続可能性の確保
8. 開発のためのグローバル・パートナーシップの構築

MDGは、国連システム全体が、共通の目標に向かって一致団結して取り組むための枠組みを提供するものである。

この枠組みの中で、世界はMDGに向かって前進しているが、その足取りは一様でなく、あまりにも遅い。

大多数の国は、JCIなどのNGOをはじめとする外部からのかなりの支援（唱道、専門知識、資源）を受けなければ、MDGを達成できないだろう。

そこで、ニューヨークの国連本部で行われた2003JCI・UN指導者サミットの結果、JCIは国連の努力に貢献する責任を担うこととし、コフィー・アナン事務総長室が実施する中心プログラムであるUN・MDGを支援する決意を伝えた。

II　8つのカテゴリー

極度の貧困と飢餓の撲滅 ・1日1ドル未満で生活する人々の割合を半減させる ・飢餓に苦しむ人々の割合を半減させる
初等教育完全普及の達成 ・すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする
男女平等の推進と女性の地位向上 ・できたら2005年までに初等中等教育における男女不平等をなくし、2015年までには全レベルでなくす
幼児死亡率の低下 ・5歳未満児の死亡率を3分の2低下させる

妊産婦の健康増進
・妊産婦の死亡率を4分の3低下させる

HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延・発生阻止
・HIV／エイズの蔓延を阻止し、減少に向かわせる
・マラリア、その他の主要な疾病の発生を阻止し、減少に向かわせる

環境の持続可能性の確保
・持続可能な開発の原則を各国の政策やプログラムに反映させ、環境資源の喪失を阻止し、回復を図る
・安全な飲料水を継続的に利用できない人の割合を半減させる
・2020年までに最低1億人のスラム居住者の生活を大幅に改善する

開発のためのグローバル・パートナーシップの構築
・開放的で、ルールに基づいた、予測可能で差別のない貿易および金融システムをさらに発展させる（国内的、国際的に、グッド・ガバナンス=よい統治、開発、貧困の減少と取り組む決意など）
・最貧国の特殊なニーズに取り組む（最貧国からの輸入品に対する無関税・無枠措置、重債務貧困諸国に対する債務救済の拡大、二国間債務の帳消し、貧困削減に取り組む諸国に対するより寛大なODAの提供）
・内陸国および小島嶼開発途上国の特別なニーズに取り組む
・国内および国際的措置を通じて、開発途上国の債務問題に包括的に取り組み、債務を長期的に持続可能なものとする
・開発途上国と協力し、若者のために、適切で生産性のある仕事を開発する
・製薬会社と協力し、開発途上国の人々が必須医薬品を安価に入手できるようにする
・民間セクターと協力し、新技術（特に情報・通信分野）による恩恵を享受できるようにする

審査基準	ポイント
全体的な計画、実施、評価	10
会員の参加率	10
広報	20
地域社会への貢献度	20
組織への貢献度	20
プロジェクトへの国連機関の参加度	20

注：UN・MDG賞に応募したプロジェクトは、他の賞にも応募することができる。

B13 青少年活動賞

審査基準	ポイント
全体的な計画、実施、財務	20
会員の参加率	15
地域社会への貢献度	40
組織への貢献度	10
プログラムの継続性	10
補助資料	5

グループC：個人褒賞

計6部門

C1　最優秀セネター

審査基準	ポイント
民間および行政機関の関与	25
JCIクリードの継続的遵守の証拠	25
青年開発プログラムへの個人的参画	25
JCIの活動に対する継続的支援の証拠	25

C2　最優秀トレーナー

審査基準	ポイント
開発したトレーニング計画のコンセプトの斬新性	20
JCIとの関連で見るトレーニングの範囲と関連性	15
トレーニング計画概要の質および体裁	15
プレゼンテーション技術の技術的メリット	15
個人開発目標の推進度	10
会員、LOM、NOMの参加率、それらへの貢献度	15
JCIリーダーシップの公的イメージへの貢献度	10

C3　最優秀会員

審査基準	ポイント
所属LOM／NOMに対する支援	20
LOM／NOMの拡大	20
実施したトレーニングおよびオリエンテーション・プログラム	20
イニシャティブおよび斬新性	20
JCIの公的イメージへの貢献度	20

C4　最優秀LOM理事長

LOMの広報宣伝とLOMの利益への貢献度において優れたリーダーシップを発揮したLOM理事長にトロフィーを授与する。表彰は、会員数(a)50名以下、(b)51～100名、(c)101名以上の3つのカテゴリーからそれぞれ1名を選んで行う。

審査基準	ポイント
一般的管理能力	20
リーダーシップ	20
活動およびプログラムへの会員の参加率	20
プロジェクト達成度	20
会員にとっての価値	20

C5　最優秀NOM会頭

会員に、4つの機会分野のすべてにおいてバランスのとれたプログラムを提供し、優れたリーダーシップを発揮したNOM会頭に、トロフィーを授与する。この表彰は世界会議でのみ行う。

審査
この賞の審査は、JCI会頭の推薦に基づいて行う。

C6　ホアキン・V・ゴンザレス記念賞（世界会議のみ）

JCI会頭の推薦に基づき、故人に贈るトロフィー。その個人が所属していたNOMの主席代表に銘板を授与する。この表彰は世界会議でのみ行う。

審査
この賞の審査は、JCI会頭の推薦に基づいて行う。

グループ D：特別賞

ファースト・タイマーズ・プログラム賞

エリア会議に初めて参加メンバー用のオリエンテーリングプログラム

ベスト・オブ・ザ・ベスト（エリアB）

最優秀LOMプロジェクト
仙台青年会議所トロフィー
注：日本の仙台青年会議所が提供する賞で、現金US$1,000が授与さその年の最優秀LOMプログラム受賞者の中から、特に優秀なプログラムに与えられる。この賞への応募は不要。グループBのすべての賞の審査終了後、各小委員会から最低1名の審査委員が出て別の委員会を構成し、受賞プログラムを検討して「ベストLOMプロジェクト・オブ・ザ・イヤー」を選ぶ。[グループBの]全賞の受賞者は、自動的にこの賞に応募することになる。

下記の基準に従って審査を行う。

審査基準	ポイント
全体的な計画および実施	20
財務管理および予算編成	20
会員の参加率	10
貢献度（プロジェクトの目的に基づいて評価）	40
補助資料	20

APDCトレーニング・プログラム賞（エリアB）

トレーニングの分野で最も傑出したNOMプロジェクトに対して、JCIアジア太平洋開発協議会（APDC）から授与されるトロフィー。

審査基準	ポイント
ニーズ調査および事前準備	10
講座の独創性	10
LOM／NOMの全体的トレーニングにおけるプログラムの役割	15
プログラム開発への会員の関与	10
プレゼンテーションの明快さ（セッション・メモを含むプログラム・メモ、プレゼンテーション、その文書化）	20
トレーニング講座としてよい成果を上げる上での構成の明快さ	25
配布およびマーケティング・プログラム	10